

高等部 窯業グループ 作業学習指導案

1. 単元 『バザーにむけて得意な製品を作ろう』

2. 指導についての考え方

○生徒の実態

本グループは、1年生○名、2年生○名、3年生○名の計○○名（男子○名、女子○名）で構成されている。生徒の障がいの種類や程度はさまざまであり、作業経験、興味・関心、指示理解、集中力、持続力など、窯業の作業にかかわる実態も多岐にわたっている。生徒たちは一学期の前期実習を終えるころから、少しずつ窯業の作業に慣れ、意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。その一方で生徒たちは、使う側から考えたよりよい製品を作る意識が乏しいという、新たな課題もみえてきた。

○単元設定の理由

窯業の作業は、粘土という可塑性に富んだ材料を用いるため、思うように造形でき興味を引きやすい。そのため成形工程では作業に集中しやすい。また、生徒それぞれの製作過程で大部分の作業を個々が担うため、責任を持って製作する必要がある。さらに、報告や質問をする場面が多く「働くこと」を学ぶには適した作業学習である。窯業の作業を通して、働く態度や意欲、力を積み重ねていけると考える。

窯業グループではこれまでに、基本的な技法と態度の習得をねらって、比較的容易で、初心者らしい成形が味わいになる壁掛け花瓶・園芸鉢・小鉢などを作ってきた。また、成形から本焼きに至る一連の工程も体験した。さらに、技術と丁寧な作業が求められるマグカップの製作も行った。

本単元は、常にバザーを意識して、使い易い製品・喜んでもらえる製品作りをねらって設定した。これまでの学習で、基本的な作業技術はある程度身に付けている。これからは、個々が得意とする製品を作ることで、よりよい物を意識しながら意欲的に作業ができ、さらによりよい陶製品ができると思った。

○支援にあたっての考え方

学習内容の工夫

- ・生徒の活動意欲を高めたり、力を発揮したりすることができるよう、自分が得意とする製品づくりをとり入れる。

学習集団の工夫

- ・生徒の作業集団は、グループ全体の情緒の安定を一番に考え、同学年を基本とした。また、支援にあたる教師も学年単位とする。
- ・個別対応が必要な生徒には、作業に集中できるような環境をつくる。

学習環境の工夫

- ・生徒が見通しを持って作業ができるように、製作工程を写真カードで提示する。また、準備・後片づけが生徒自身でできるように、道具等の置き場を決めておく。
- ・生徒が作業にすぐ取りかかれるように、少し厚めのタタラ板は、準備しておく。
- ・製作する物がわかるように、製品の見本を提示する。

3. 単元目標

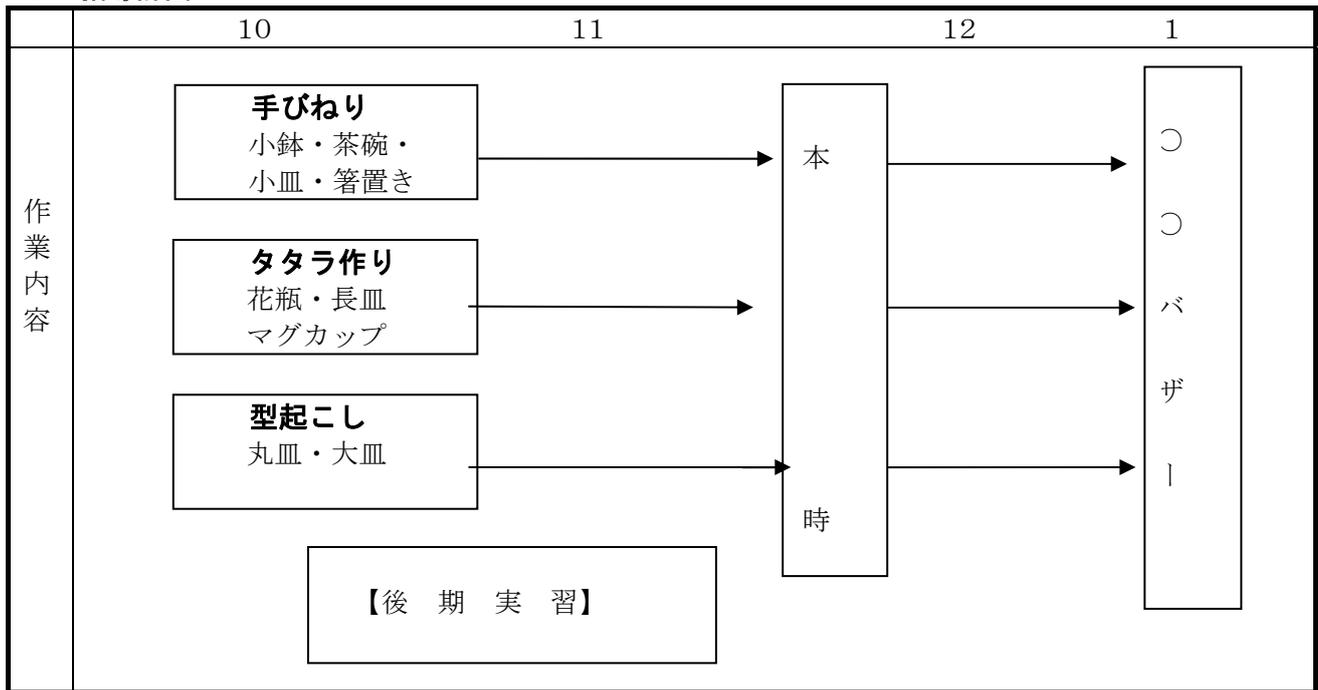
- ・製品作りを通して、作る喜びを味わい、より完成度の高い物を作ろうとする意欲を養う。
- ・作業工程を理解し、見通しを持って製作に取り組む。
- ・集中して作業に取り組み、持続力を身につける。
- ・場に応じた挨拶、返事、報告ができる。
- ・バザーでの宣伝・販売を通して、地域の方々を意識し、社会性を高める。

4. 生徒の実態と目標

	A男 (○年)	B男 (○年)	C女 (○年)
個別の指導計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> 作業に手中して、丁寧に取組めるようになる。 自分の作業工程を理解し、見通しをもって取組めるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて作業に取り組むようになる。 できるだけ指示された活動を持続するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 窯業での手順や道具の使用法を理解する。 できるだけ自力で作ることができる。

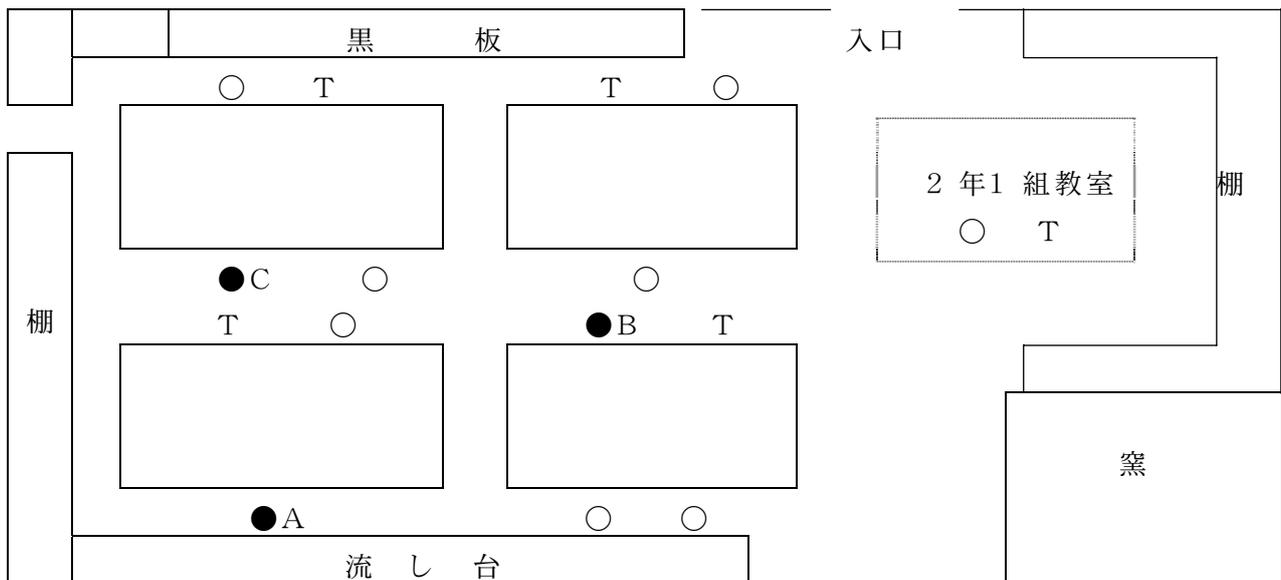
単元に関わる実態	<ul style="list-style-type: none"> 作業に興味をもって取り組んでいる。 周囲に気をとられて、手は止まってしまうことがある。 用具の使い方、粘土の扱い方、仕上げの程度の理解が不十分で、雑になりやすい。 報告が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分勝手な言動が多い。 思いつくままに動き回るので注意が必要である。 右手が不自由なので、一人では難しい作業工程がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土に対する抵抗感はなく、造形することに意欲的である。 指示を待つ傾向があり、自ら作業を進めることが苦手である。 粘土に対する力の入れ具合が上手くつかめず、製作に必要な以上に時間がかかる。
単元の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> 作業工程を理解し、見通しをもって作業に取り組める。 作業に集中して、丁寧に取組み、見直しができる。 質問、報告ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> タタラをできるだけ自分の力で作ることができる。 難しい所は教師の補助を受けながら、「皿作り」を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順に見通しを持ち、自ら製作を進めることができる。 手びねりの特性を知り、粘土に負担のない速さで製作することができる。
支援の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 準備する道具や、工程が理解できるように、写真カードを提示する。 集中して作業ができるように、具体的な回数や時間を示す。 質問や報告の仕方について適宜、声かけを行う。 手順チェック表を準備し、自分で確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に対する見通しを持つことができるように、作業手順をわかりやすく説明する。 うまく作業できない所は、部分的に教師が支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業を始める前、手順を確かめられるように、工程ごとの確認をする。 作業が滞りがちな時は、次の手順に移れるように、次の手順を質問する。 製作のポイントで、材料の特性から手指の使い方まで確認できるように声かけ・師範をする。

5. 指導計画



6. 本時について

○場の設定



○準備

手びねり	ロクロ、粘土板、へら、なめし革、切り糸、ドベ、水
タタラ作り	ロクロ、粘土板、タタラ板、のべ棒、布(布目用2種類)、へら、切り針、弓、切り糸、型紙、瓶、新聞紙、セロテープ、切り糸、ドベ、
型起こし	粘土板、タタラ板、のべ棒、布(布目用2種類)、へら、切り針、石膏型、砂袋、成形台、なめし革、水

○本時の展開

(1) 本時の目標

- ・集中して作業に取り組むことができる。
- ・見通しを持って製作することができる。

(2) 展開

	めざす姿	評 価 の 観 点
A	・花瓶作りに，集中して取り組む。	・手順表を見ながら，一つ一つの工程を確認して作ることができる。
	学習内容と活動	支 援 の 工 夫
	1. はじめのあいさつをする。 2. 本時の学習内容を知る。 3. グループに分かれて活動する。 ①引き続きの作業になるので，準備を確認する。 ②粘土をのべ棒で伸ばす。 ③タタラを完成する。 ④型紙に合わせて，タタラを切り取る。 ⑤タタラを紙筒に巻き付け，ドベで接着する。 ⑥底をドベで接着する。 ⑦仕上げをする。 ⑧ロクロから切り離し，板の上に置く。 4. 後片付けをする。 5. まとめの反省会をする。 6. おわりのあいさつをする。	・写真カード・手順表や，道具・材料の準備を確認するように声かけをする。 ※②～⑧の活動中，手順チェック表を記入しているか常に確認する。 ・様子を観察しておく。回数を数えながら伸ばすように助言する。 ・報告がない場合は，報告を促す。 ・丁寧に切り取るように，声かけをする。 ・ドベの量，巻き付け部分の接着を確認する。 ・ドベの量，閉じ合わせ部分を確認する。 ・うまくできない場合は，指やなめし革で，滑らかにするように声かけをする。 ・周りの状況に合わせて，片付けるように声かけをする。 ・頑張ったことをはっきりと言えるように声かけをする。よくできた点を賞賛し，次回につなげるようにする。

(2) 展開

	めざす姿	評 価 の 観 点
B	・皿作りに集中して作業ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・タタラが均等の厚さにできる。 ・集中して作れる枚数、2～3枚を作ることができる。
	学習内容と活動	支 援 の 工 夫
	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめのあいさつをする。 2. 本時の学習内容を知る。 3. グループに分かれて活動する。 <ol style="list-style-type: none"> ①引き続きの作業になるので、準備を確認する。 ②粘土をのべ棒でのばす。 ③タタラを完成する。 ④型に粘土をのせて、砂袋で叩く。 ⑤完成する。 4. 後片付けをする。 5. まとめの反省会をする。 6. おわりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座る位置や姿勢などに配慮をする。 ・見通しを持てるように、使用する道具や完成品などを提示する。 ・足りない道具や材料がないか、写真を利用して声かけをする。 ・左手がのべ棒の真ん中に来るように注意を促す。 ・しわや手形などがついていないか点検して、できている部分は賞賛する。 ・軽く、優しく叩くように声をかける。 ・作業終了の手立てとして、「できました」の報告を促す。 ・一緒に完成を喜ぶ。 ・丁寧に片付けるように促す。 ・自分の道具を確認して、報告を促す。 ・本時の評価で、良かった点を賞賛する。 ・周りに気がとられないように、整理、整頓を促す。

(2) 展開

	めざす姿	評 価 の 観 点
C	・粘土の厚さが均一な茶碗を作る。	・側面の厚さを，6mm程度で仕上げる。
	学習内容と活動	支 援 の 工 夫
	<p>1. はじめのあいさつをする。</p> <p>2. 本時の学習内容を知る。</p> <p>3. グループに分かれて活動する。</p> <p>①引き続きの作業になるので，準備を確認する。</p> <p>②粘土を丸めて，ロクロに設置する。</p> <p>③茶碗の大きさに合わせて，粘土の中央に穴をあける。</p> <p>④粘土の厚さに注意して，側面を成形していく。</p> <p>⑤完成する。</p> <p>4. 後片付けをする。</p> <p>5. まとめの反省会をする。</p> <p>6. おわりのあいさつをする。</p>	<p>・午前の作業を引き続き行うことを伝える。</p> <p>・見通しを持てるように，使用する道具や完成品などを提示する。</p> <p>・足りない道具・材料がないか，確認するように声かけをする。</p> <p>・ロクロから離れないように，粘土をしっかりたたいて円すい形に設置できるように，助言する。</p> <p>・底の厚さを十分にとって，茶碗の深さ・外周の大きさをきめるように，適宜声かけをする。</p> <p>・側面が均一の厚さになるように声をかけ，場合によっては示範をする。</p> <p>・完成の手立てとして，「できました」の報告を促す。</p> <p>・出来については，具体的に評価する。</p> <p>・道具や粘土を，所定の場所へ片付けたかを確認する。</p> <p>・頑張ったことをはっきりと言えるように促す。よくできた点を賞賛し，次回の作業への意欲へとつなげる。</p>